121.27
N197a

国立国会図書館　タイトル『あそ山のあらひのあけつらひ』 請求記号 121.27-N197a

ガラス使用

あそ山のあらひのあけつらひ

国立国会図書館　タイトル『あそ山のあらひのあけつらひ』 請求記号 121.27-N197a　ガラス使用

121.27
N197a

国立国会図書館蔵書

121.27
N197a

国立国会図書館蔵書

あそ山のあらひのあけつらひ

文化乃十まる二とせといふ年の夏の初つかた、
阿蘇の山ゐでくもといでゝ、
彩よと一つ雲を主とする雲を
つゝみ、赤き風まじり大そよ吹
よ多れどきて、みそのまふるそ、よ人りの巌我雲
みとぞ、そよとあひあひて、四方ふ碎けちり、光そ、
電なく、音そ、千万の雷ふ如
のごまで七をふり、日のめもみえ
ず、そらひめるふと、あ雨
ふて月日をへて

国立国会
25.3.31
図書館
112526

国立国会図書館　タイトル『あそ山のあらひのあけつらひ』 請求記号 121.27-N197a　ガラス使用

まぎらわきいのくさ六月(ミナヅキ)のころ、白いうくさ降りしが、峯(ミネ)より
も尾(ヲ)ぶさ雪とつもれる灰(ハヒ)どもを、かのもみぢもみな谷(タニ)にう
ちくだ(クダ)し、未(イマ)だ白川(シラカハ)まなぐれ入(イリ)こもり激(タギ)ち流(ナガ)れ、雲(スミ)かさし流(ナガ)れうちむやうたるに、麓(ソコ)のうをどもみな皆浮(ミナウキ)
やうく秋(あき)て本性(もとのこころ)の淳(うかび)つるのめ(ウカヅルノメ)出(イデ)あれ、湖(うみ)より入(イリ)てそこそこ水脈(みを)
おもる魚心(うをごころ)おなじくこゝろぬとそうたふ、又里(サト)にふかう牛馬(うしうま)も、何(なに)
灰(はひ)の降(フリ)うも気味(キミ)よげにて、皆群(みなむれ)あそびきて宵(よひ)さしだ
をく禁(フモト)をまで塚(つか)より戻(もど)し本(もと)のごとく灰(はひ)降(フリ)かけ
ぬ、山(やま)もまのあたる穀(タナツモノ)ハこゝろごと(畠)もなくて、

紙(ミツノヲ)男らそ、せむをぐるよ歎(ナゲキカナシ)めるを、歌(コヽ)のつきよりそれ
あり、声(マドコロ)聴(きゝ)ようくれば、事(こと)とする(職)きこゑもつゝまく、笑(ワラ)
ひいたく、高(たか)くこゑ(ルビ:こゑ)ハ、やこのごとく大宮司(オホミヤヅカサ)ハ、なをゝ(ミイノリ)祷(ほぎ)
たと祈(ねぎ)もおなじくびおこせつゝまうでなどして、
鄙(スサ)まり、ふるぶるまひあそびの静(シヅ)まりもむたとを、祈(ネギ)
やさしくおしやまり、荒(アラ)びおひて、少(イサヽ)かゝこゝろ
なむそこそこうまけれバ世のくさ人の口(クチ)ぶりハ、種(シサ)々乃
惑(まど)ふ説(コト)のこゑ(イヒ)ふるまひ人の心を惑(まど)すものあるそ、あれ
ハ、いうなるおろかものにこそ中(なか)に一つ二つを

国立国会図書館　タイトル『あそ山のあらひのあけつらひ』 請求記号 121.27-N197a　ガラス使用

このうしあなる八角（ナノヅカ）ら、硫黄の多少（オホキスクナキ）よりあらび、実（マコト）
そ、此山我うしそ領（シ）まる物ら大神（オホカミ）ら沸心（ミコヽロ）よそ時よら荒て
八あらびしふぎあしくよべくそ
まゆるそしバなるゆをそたよ
きそ一あるそ、なぐて世ま
愚（オロカ）なる民のいふおと八、おそ（ウチキリ）
別（イカリ）志そ和め、原理（フカキコトワリ）よかな一る物な
一わろ八さるなとやうな社ど
いふとは、この理（コトワリ）がそしバ人（ヒト）のおもる考（ツネ）
めぐて、おこ多ふみ、悲（イカリ）ふ
な社バなるぞの物の所心よかな
さるをおしあてよかよく論（アゲツラ）ふ
こ、多ふとも、大神（オホカミ）の沸心（ミコヽロ）をそうもる
あぢのして、ちふけなきそぶる
なるとあぢまくら社多理（コトワリ）ける孔（シ）
るを、論語の郷党（ゴキヤウ）のそぐうよ
必変（カナラズアラタム）とある年、天（アメ）も悲（イカリ）
て、あ里、そそ註（トキゴト）よいて、雪社の
めごて、おこ多ふみ、悲（イカリ）ふ
な社バなるぞの物の所心よかな
さるをおしあてよかよく論（アゲツラ）ふ
こ、多ふとも、大神（オホカミ）の沸心（ミコヽロ）をそうもる
あぢのして、ちふけなきそぶる
なるとあぢまくら社多理（コトワリ）ける孔（シ）
るを、論語の郷党（ゴキヤウ）のそぐうよ
必変（カナラズアラタム）とある年、天（アメ）も悲（イカリ）
て、あ里、そそ註（トキゴト）よいて、雪社の
迅雷（トキイカツチ）なのう風烈（カゼハゲシキ）とき
ハ、聖人（ヒジリ）も、こ恐まつ
ハ、烈風のあらき

国立国会図書館　タイトル『あそ山のあらひのあけつらひ』 請求記号 121.27-N197a
ガラス使用

112526

国立国会図書館　タイトル『あそ山のあらひのあけつらひ』 請求記号 121.27-N197a　ガラス使用

高御産巣日神（タカミムスヒノカミ）
天照大神（アマテラスオホカミ）などをやしろに祭りまして、神身（シミ）をも拝（をろが）みまつりそこなひ、多（さわ）に大汝神（オホナムヂノカミ）の代（ヨ）より神（カミ）なとをやしろに祭（まつ）りまして、皆現神（アキツミカミ）（ナガラ）の御霊（ミタマ）を祭（まつ）りまつる神（カミ）たちを、山（ヤマ）は嶋（シマ）を生（な）るはもとより、名山（オホヤマ）の神（カミ）よりさやうなるも（領）、かしこにて、山（クシビ）ある限（かぎり）は山をうしはきまします大神（オホカミ）なれば、山の荒（アラ）ぶるをやすめて、その山をうしはきます大神の御心（ミココロ）くしだに、かしこくなるものを、

イニシヘハ山川草木多數ヲモ弥トイヘリ古事記ニ八百萬ノ神ニクハシコトノ説ハ少シタガヘリ

神怒（カミイカリ）をなだめむとをいのりまつりたまひて、厭（マド）のそはのうちひの古（イニシヘ）よかなひあるめでたきことなれば、心とゝびたまひける、さるを元用（イタツラコト）なるをもいたくにくみ給ひて、無禮（なあや）なる天神地祇（アメツチノカミ）をおろそかに祀（まつり）をおろそかにまつりごと（國政）をしたまふをいきどほりたまひて、みづからおろちとなりて、天地神祇（アメツチノカミ）（イヅノオリ）を大惡（オホアラ）び給ひしかば、天人（アマビト）も歎（なげ）き悲（かなし）みて、疫神（エヤミ）を祓（はら）ひ給ふをいよいよ瞋（イカ）りて、ますます（メチマチ）疫神（エヤミ）を増（シ）し給ひて、又祈（イノ）るにしたがひて又祈（イノ）るにしたがひて、ますます瞋（イカ）りたまふ、かゝるに思兼命（オモヒカネノミコト）も大愚（オホキナルオロカ）の神の御（ミ）心（こゝろ）を悟（さと）りたまひて、重（かさね）て祭（まつ）りまつりたまふ、

又いくよ祈つゝそゝ、験を施こゝなき
しおそくさやもゝくさぐあいひて、三ゐを
神心なれバ迷惑のあるもしらぬにぐるまし
いつまでもいのらバつひに一ゐのぞゝを
なをそあるべゝ祈バかなふなさゝうしら残をゝゝたゞひる
ぶるゝ祈るぐまゝしをそでまよいよて古事記にある
そる大祓の神慈よりて、山のあらびうしなど、古事の神
代ゝそれをみうゝべさるをゝバ、いつも朝廷より、
大命のゝゝ幣帛をゝゝめなどあるらを踏ひまゝ
傍をゝゝ将門を神徳しあて祈やき
しあるひるゝも古き史ともよ、許多をゝたわゝゝ
此大祓乃神慈をバ、朝廷よりも、ふゝゝく恐のひなよ
ゝそゝしゝ神祷どをゝゝるゝらもいのりよ和ゝ
ゝゝ例ていちごゝるれゞその世ふゝゝも祈るをゝバ、
古き例よこのまゝいゝそれを毎月ごとに
にゝも、祓よ祈るゝ、古事記ゝや風土記のゝゝて
ゞゝゞゝ申も、皇国ゝ言霊幸ふ、神の国也ゝ、
古ゝよゝ、祓をゝゝる凡俗

なれバたとる祈(ネギ)ごとを宗(ムネ)とせり、抑神の御代の初、
とくも畏(カシコ)き皇祖(スメラミオヤ)天照大神(アマテラスオホミカミ)の天(アメ)の岩屋(イハヤト)をとざし
まゐし時、天児屋命(アメノコヤネノミコト)ふとのりとごとを
めしたまひて、かく万(ヨロ)びよろこ
るゝあらバとて、ひそとそをあそ
神をいのまつるに、
神楽(カミクラ)の

神代(カミヨ)やは、そのうるはしき感(メデ)のふもとあなしばらくをとゝめふでの羽(ハ)のあでやかひて、早(ヒデリ)よ雨ふらまあらまき活(イ)けづまでるとひ、古(イニシヘ)もまさしくそ侈(オゴ)あり、もつとあてこそ残うるはしくもめでたく感(メデ)ふをうけくもめでたくもあるかな、古(イニシヘ)の誠(マコト)のうつくしきをそ、いまでもあざらしてそれをめでたくもあるかな、かつて思ふそゝらびやあるらむ、さればうれしくまことの人(ヒト)のうつくしきをそ、

なほこのそらひふばかりくまあ降(フ)らぬかのうれしき世の人(ヒト)かつそうつくしきまでそ儒者(モノシリ)おもほえ稼(キソ)きし古(イニシヘ)の人(ヒト)そ、新(メヅラ)しき福あり、咽(ノド)へ入(イ)り難(ガタ)き福あり、

まき実(マコト)よ世よいたゆる事(ワザ)てばひぐくうつくしきをと、曙(アケ)立王の鷺巣(サギス)の池(イケ)の樹(キ)よまあ降(フ)らとみなへ昇(ヤガテ)地(ツチ)よ落(オチ)て死(シニ)きい又(マタ)栴檀(カシ)の前(サキ)なる茶(ハナ)庵(フル)くまうをうゝをうゝうひいうのうるうるこれ古(フミ)史どもそ、あまつそゝるまそれ人(ヒト)よくいみ(コヽロ)そゝをねてゝはゝうゝはこのうゝらをまでつゝ

さるおとこ一向(ヒスラ)に神(イノ)ちかひみなどの
うけをきゝおもてもむいのまゝとをなどそゝとおろかなるまど
つゝそのつゝをまもるを待(マツ)一ばかりのちにハのちべとも
をきるべからざるハこゝまでおろかの末のたとゝおて
くに人の心もそうらおほるそゝくごとくに
にでうれくをしきことなくなるべや又古(イニシヘ)の神を
祭るよに吉占(フトマニ)をト(ウラ)ごとをもて神の清意(ミコヽロ)をトてそのうら
よまに祭(マツ)れハ神(カミ)のこゝろかおひてさちて福
ひさしきをいまの世よハト(ウラ)などもに愚(オロカ)にまどふことぞ

一そうけばう〳〵古(カムワザ)ハ神業おもて世をさめ
給ふ大政(オホマツリゴト)おも、宝(タカラ)をハまづト(ウラ)て、神の命(ミコト)を請ひて、よそづ神のこゝろ
まで初(オコナ)ひあまてゝきいそ倒(タフ)れ古(フル)きしぬことをおおく
てそうさて〳〵世、神社(カミノヤシロ)をも清(イサ)ぎ園
をも捨れ屋ごとて占(ウラ)ふ上代(カミツヨ)ハ吉占(フトマニ)麻(シカノウラ)トなどゝそ余(ソノホカ)ハも、
あまのト法(ウラ)あまたのどゝ皆絶(メエ)てつたらぬことをき
まぎこゝろ方〳〵神祇(カムツカサ)官(カメ)も亀卜(ウラ)ハ記のあるよおもれど、
そも〳〵中世(ナカツミヨ)のそゝよ漢土(カラクニ)より伝(ツタ)へてなしばなをあらぬ

なまむ、汚れバ(イマ)そハ、ほのよるぐまいまぎなれバ、稲ッ彼、ほくで
とうをもて、大神(オホカミ)の御心我うらくなるようて、怒るの人ると
ほをて、又いふるわざうてバ和(ナゴ)まるもとうよさをき、
うぐひきをこうよてこうぐよてうふをなバ必(スキコシメシ)
の(ま)ぬて、山のあらびいとくまぐまるもよぐゆあお
わそのふ思もおこうて、たそそぐ祈(ネ)ぎらおろ人のを
も、さをづる、かう姫をよこうでのとも、かうあぎづうしさする
言、彼のくよいとこうる丸あちぎ(言)痛(ヲ)なもわざなれど禍(マガ)
津日(ツビ)よみのまぐをまものづこうる、世の人(祝)遺(害)たそきて
よなまま。

ぐかるて、神(カムナホビ)大直日(オホナホビ)、ちと(言)なほく
欲(ネ)うて、回(マ)お祈るな於祈(忌)幸かしこゆる

長瀬大人乃阿蘇峯社あそつらひ文字兄猶
三首まち詞

中島春臣

吾大王山城國多氐らし宮乃まくら
そそくめこそ程三年四方乃食國
おやまひ乃をを程ム年四方乃食國
叫も多そそ萬乃禍あらふく
やしま乃大御代乃表有けるよろ肥の道乃
後乃そ乃なか阿蘇乃大山乃
大御霊なも今年復乃

そ耶もあ〻俗ぞる其そ乎山そゐ社 歳(イハ)とした
水ゐまき二てもえあのる大そて八
そゝめく音(オト)なの二て國中(クニナカ)ゐ
ゐ社よゐ母四方(ヨモ)の民草(タミクサ)ゑ
をゝらび木(コ)れ下(モト)岩(イハ)おのゐまも
あなくくびまゝゑ野山(ヌヤマ)よ
氣ゑふ社二ゐなどゑ乎やそゐ
の宮司(ミヤミカサ)いくくなゐのにて大神(オホカミ)の御心(ミコヽロ)
をれゝなゐさま九か程二てあ
ゐ早河(ハヤカハ)の瀬(セ)二

松(マツ)ゑ之ゝをぎ二つ うづ二ゝ
な横山のゐとおきゐゐ大宮乃大前(オホマヘ)ゐ
まゐゐ志くくゑれぬゑをゐ
つきめ葉(ハ)ゐ祢宜(ネギ)ゝをゝゐみよ
神の御心(ミコヽロ)を和(ナゴ)めまゐ
らびやまゐ世(ヨ)ゐくなゐゐ形(カタ)ちび
ゐ社ゐ
くゐ のまゐゐと乎
うゝなゐ乎かくうあけつ
ゝゑ乎ゐ志ゐ毛ゐ大神の御
ゝうみをゐ毛ゐの大(オホ)ゐ

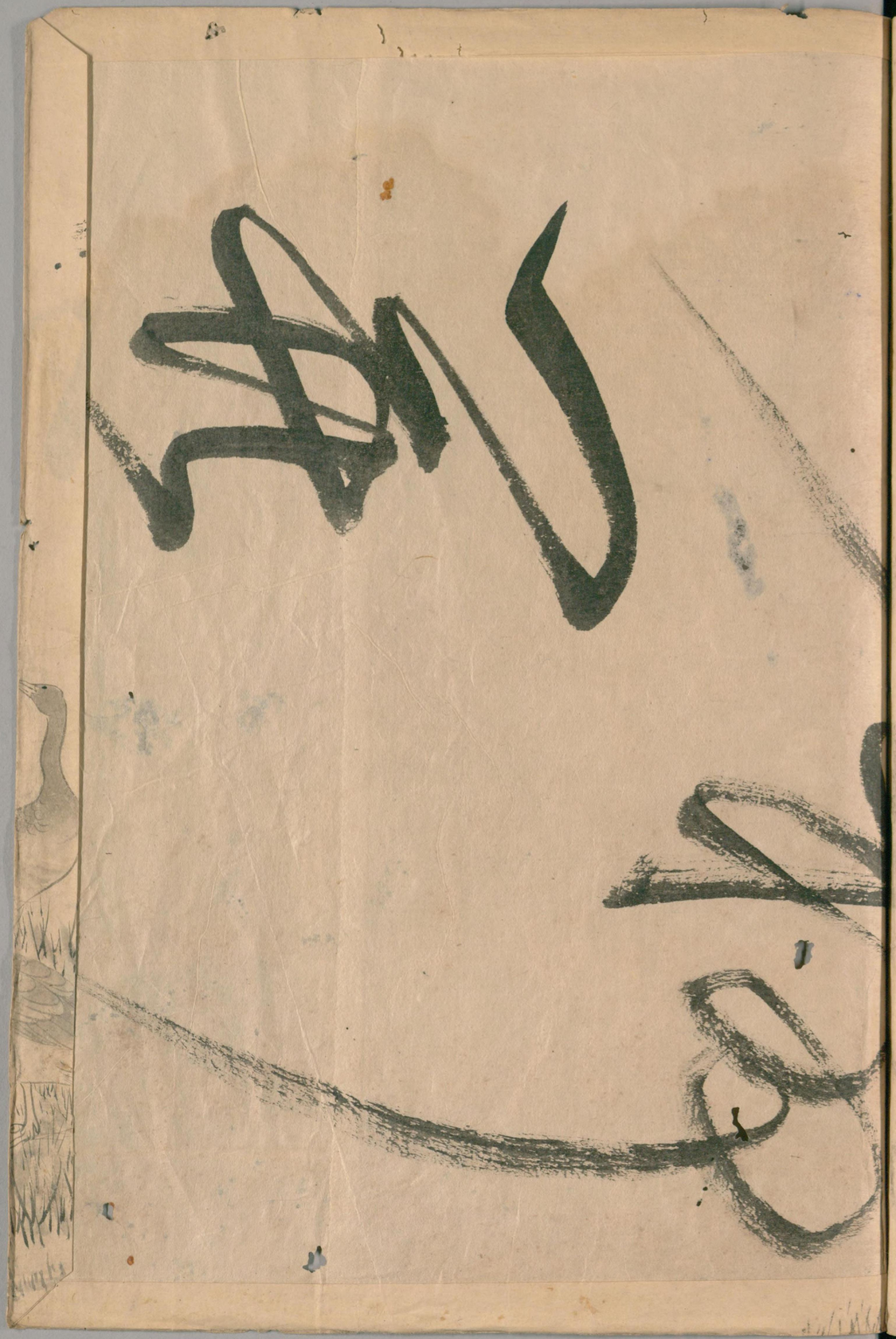
まま古の事を引出て
物語其事云傳ふる乎海
を渡ぶが常夜行くらき
まゝや雲く九くあるらめ
ほ乃御霊を副奉ばる
てらくも、あるよかしまゝ吾
のやうにひけゆくはつ
日よ神のまゝの御ゝ言痛き
うもつゞきさうたまの佛意を表とそのまゝ

人のあるさ大神怒ま
ーめしまゝをとかく
らとおもひおもひまゝ
おそぢもの大神等
らおおいきの古乃道
あるものもいぢ言あ
俱ゐて

吾命千年乎毛賀門古乎奈倍互加
幣良武御代手見倍久

のくいてぶ[illegible]大神乃
な[illegible]表あ[illegible]のこくさいあ[illegible]多
文化十[illegible]二[illegible]七月(フミヅキ)乃

国立国会図書館　タイトル『あそ山のあらひのあけつらひ』 請求記号 121.27-N197a　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『あそ山のあらひのあけつらひ』 請求記号 121.27-N197a　ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『あそ山のあらひのあけつらひ』　請求記号 121.27-N197a

ガラス使用